

マニフェスト評価

三沢市議会議員

早稲田大学マニフェスト研究所

対象者： 太田 博之

評価者： 客員研究所員 佐藤 淳

■ 評価基準

- ◎ 十分成果を上げた
- 一定の評価に値する
- △ 実現に向けて更なる努力が求められる
- × 活動不十分

(評価者コメント)

総合 ○

マニフェストを掲げて選挙をし、当選後もその実現に向け、マニフェスト・サイクルを回していることは高く評価出来るが、具体的な成果が出るまでに至っていないことが残念。引き続き、成果をより意識した活動を期待したい。

約束1 ○

協働のまちづくりにつながる具体的な成果は出ていないが、市長マニフェストに、「三沢版コミュニテースクールの導入」「地域担当職員制度の活性化」が盛り込まれる等、今後の動きが期待出来る。数値目標として掲げた項目はともに未達であったが、一般質問等で取り上げたことにより、総合計画の後期基本計画に目標数値の設定が実現したことは大きな一歩。

約束2 △

議会で様々な提案を行ってきたが、地域資源を活用したまちづくり、雇用創出に結び付いたかは、不十分。がん検診に関する数値目標も大幅未達。後期基本計画で目標数値が設定されたことは大きいですが、その実現に向けた更なる努力が求められる。

約束3 △

マニフェストに掲げた「議会基本条例」、「政治倫理条例」の制定は実現出来なかった。開かれた議会への取り組みの一環として、議会広報誌の復活に際して中心的な役割を担ったことは評価出来る。しかし、全国的な議会改革の取り組みのスピードに比べ改革が遅れていることは否めない。改革の進展に向けて、議会全体を巻き込んだ取り組みが必要。